

各班研究報告第七號  
(法律研究班)

建國大學教授  
法學博士  
瀧川政次郎  
校解題

# 宋元驛制紀事

—永樂大典所引「金玉新書」及「經世大典」逸文—

滿洲事情案內所

建國大學教授  
法學博士  
瀧川政次郎  
解題  
校定

宋元驛制紀事

滿洲事情案內所刊

滿洲事情に關する

調査・照會・圖書・寫眞は

新 京 滿 洲 事 情 案 内 所

新 京 特 別 市 中 央 通 六  
電 話 ③ 四 九 三 八・五 〇 〇 八  
振 替 口 座 新 京 二 二 四 七

牡 丹 江 滿 洲 事 情 案 内 所 東 滿 案 内 所

牡 丹 江 市 太 平 街 三 〇 一 二 二  
電 話 五 二 二 二 九  
振 替 口 座 牡 丹 江 八 二 六

彌 榮 滿 洲 事 情 案 内 所 彌 榮 分 所

三 江 省 樺 川 縣 彌 榮 村  
電 話 ③ 四 九 三 八・五 〇 〇 八  
振 替 口 座 新 京 二 二 四 七

康 德 八 年 六 月 二 十 五 日 印 刷  
康 德 八 年 六 月 三 十 日 發 行

宋 元 驛 制 紀 事

定 價 一 圓 五 十 錢  
送 料 四 錢

編 纂 人 瀧 川 政 次 郎

發 行 人 新 京 特 別 市 中 央 通 六 河 村 清

印 刷 人 奉 天 市 鐵 西 區 裕 工 街 一 段 四 一 號 瀧 上 米 造

新 京 市 中 央 通 六

發 行 所 滿 洲 事 情 案 内 所

電 話 ③ 四 九 三 八・五 〇 〇 八  
振 替 口 座 新 京 二 二 四 七

目次

一、解題……………一

二、永樂大典、卷一萬四千五百七十五、六幕、鋪字、急遞鋪條所引

「金玉新書」本文……………一八

三、同「經世大典」本文……………三七

## 解題

茲に「宋元驛制紀事」と題して刊行するものは、滿鐵大連圖書館所藏の劉承幹舊藏「永樂大典」卷一萬四千五百七十五、六暮、鋪字、急遞鋪の條に引かれてゐる「金玉新書」及び「經世大典」の本文である。急遞鋪は宋・金に徧つて元に承け繼がれた驛傳制の一種であつて、元の至元二十年以後は、公けには通遠鋪と稱せられたものである。「金玉新書」は、後に論述する如く、宋代の法律書であり、「經世大典」は、元の至順年間に成つた法令全書である。故に茲に掲げる「金玉新書」の文は、宋の急遞鋪に關する紀事であり、「經世大典」の文は、元の急遞鋪に關する紀事である。是を以て、余は、本書に與ふるに「宋元驛制紀事」の名をもつてした。蓋し、文廷式が「永樂大典」中より元と高麗との交渉に關する「經世大典」の文を抄出して、「元高麗紀事」一卷としたのに倣つたのである。

「永樂大典」は明の成祖の永樂年間に、解縉、姚廣孝等が敕を奉じて編纂した一大類書であつて、「佩文韻府」と同じく、韻によつて項目を配列し、各項目下に書契以來の經、史、子、集のあらゆる文を掲げてゐる。永樂元年、編纂の命あり、同二年に奏進せられ、書名を「文獻大成」と賜はる。

尋いで五年、再修の命あり、改めて「永樂大典」の名を賜はる。本書の卷數は、姚廣孝等の「進永樂大典表」には、二萬二千八百七十七卷とあるが、明史、明實錄、野獲編、鬱岡齋筆塵等に見える卷數はこれと異なる。冊數は、一萬一千九百九十五冊で、原則として二卷が一冊を爲してゐる。世宗の嘉靖四十一年、禁中に火あり、此の書幸に焼矢を免れたが、世宗はこれに鑑み、書臣に命じて正副二本を作り、原本は南京に、正本は北京の文淵閣に、副本は皇史宬に度藏した。その後、南京の原本は、火災に遭つて焼失し、文淵閣の正本は、二千四百二十二卷を缺失した。明の滅亡後、文淵閣の正本は、紫禁城内の乾清宮に移され、皇史宬の副本は、後に英國大使館となつた翰林院の中に移されたが、嘉慶二年、乾清宮火災に罹り、正本は全部烏有に歸した。翰林院の副本はその後も存在したが、保存状態不良にして散佚多く、咸豐十年の英佛聯合軍の北京攻略の際には、その一部が盗難に係り、民間に流出した。その後も清朝の衰運と綱紀の弛廢とに依つて、散佚甚しく、光緒元年には、五千冊に及ばず、同二年には、三千餘冊となり、同十九年には、六百餘冊となり、同二十六年、拳匪の亂以後には、僅かに三百餘冊を餘すのみとなり、辛亥革命の喪亂に至つて、終に全く姿を沒した。前北平圖書館長袁同禮氏いたく永樂大典の散佚を嘆き、殘本の搜索にあらゆる努力を殫したので、同圖書館は殘本六十餘冊を有するに至つた。民間に散じた永樂大典の殘本は、英米の諸國にも流出したが、轉じて日本の藏書家の手に歸したのも尠くない。京都帝國大學、東洋文庫、

故富岡謙藏氏、故内藤湖南氏等は、日本に於ける永樂大典殘本所有者の主なるものであり、ワシントン・コレクション、オックスフォード大學等は、歐米に於ける永樂大典殘本所有者の主なるものである。支那に於いては、前述の北京北平圖書館の外、永樂大典の殘本を所有せる者數家を數へるが、その最も主なるものは、嘉業堂文庫の主として知られる劉承幹氏であつて、その所藏殘本は二十餘冊に上つてゐる。その二十餘冊が全部前滿鐵總裁松岡洋右氏の英斷によつて滿鐵に購入せられ、滿鐵大連圖書館に藏められるに至つたことは、われわれ滿洲にあつて支那學の研究に従事する者の大なる喜びであらねばならない。永樂大典のもつ學術的價値は、それが今日既に亡佚してしまつてゐる明以前の典籍を多く引用してゐる點にある。清の乾隆帝が、四庫全書を編纂するに當つて、永樂大典より排纂校訂して復活した書物は、實に經部六十六種、史部四十一種、子部百三種、集部百七十五種、合計四千九百二十六卷の多き上つたといはれてゐる。併し、四庫全書の編纂に與つた學者達は、いづれも詩文、明經の學にたづさはつた人達であつたから、彼等は永樂大典中より經傳、詞章に關するもののみを抄出し、朝章典故に關するものは、文典雅ならずとして、多くこれを採らなかつた。故に今日殘存せる永樂大典中には、亡佚せる宋元の政書、法令の未だ世に知られざるものが載録されてゐて、宋元の法制の研究に貴重の史料を提供してゐる。されば近代に至り羅振玉、王國維等の學者は、永樂大典の殘本中より乾隆の編纂官等が棄てた政書、法令の類を抄出

し、これを刊本として世に弘めた。その主なるものを擧ぐれば、清末の地理學者として有名な徐松が、永樂大典中より馬政に關する元の經世大典の文を抄出して「大元馬政記」一卷となせるものあり、文廷式が同じく永樂大典中の經世大典より各種の逸文を抄出して作れる「元高麗記事」一卷、「大元畫塑記」一卷、「大元倉庫記」一卷、「大元氈劇工物記」一卷、「大元官制雜記」一卷がある。これらの諸書は、いづれも北京の文殿閣が、王國維の跋文を附して「廣倉學窘叢書」から覆刻し、「國學文庫」として出版した。又故羅振玉氏は、京都富岡氏藏するところの永樂大典殘本中より宋の吏部條法を抄出し、これを「吉石齋叢書」に入れて出版し、袁同禮氏は、北平圖書館所藏の永樂大典、臺の部に引かれてゐる「南臺備要」の一冊を原本大に覆製して配布した。宋の吏部條法は南宋に於ける吏部の選舉及び考課に關する法令を集めたものであり、南臺備要は、元の御史臺が官吏の非違を彈劾する規準を定めた法令集であつて、俱に宋元の法制を窺ふべき貴重の資料である。日本に於いても、日本に傳來せる永樂大典の中から學界未見の佚書を寫眞版として覆製刊行する事業が行はれた。即ち昭和五年には、東洋文庫が、その所藏に歸せる永樂大典卷一萬九千四百十六乃至卷一萬九千四百二十六に引かれてゐる經世大典の站赤の條五冊を覆製刊行し、昭和十三年には、京都帝大の東洋史研究會が、故内藤湖南博士舊藏の永樂大典卷二千六百八に引かれてゐる元の憲臺通紀を覆製刊行した。前者には、文學博士羽田亨氏が、解説に代へて起稿せられた「元朝驛傳雜考」が



附刊せられ、後者には、故内藤湖南博士が、雜誌「史林」に掲載せられた「憲臺通紀考證」が轉載附録せられてゐる。茲に抄出刊行した「金玉新書」と「經世大典」の本文は、從來何人によつても刊行されなかつた學界未見書の逸文であつて、本書によつて初めて活字になつたものである。滿鐵大連圖書館所藏の永樂大典には、此の二書の外に吉石齋叢書に載せられなかつた吏部條法の逸文が二冊もあり、又その外に色々な立場から見て貴重な逸文もあるやうであるが、余は取敢へず此の二書を抄出して、これを江湖に紹介することとした。

金玉新書は、四庫全書總目提要、政書存目に

金玉新書二十七卷

永樂大典本

不著撰人名氏。蓋元時坊本也。其書凡大綱三十一門。一曰民庶。二曰商旅。三曰僧道。四曰官制。五曰州縣。六曰監司。七曰皇族。八曰遣使。九曰職任。十曰薦舉。十一曰選試。十二曰推鞠。十三曰公吏。十四曰軍防。十五曰督捕。十六曰倉庫。十七曰場務。十八曰綱運。十九曰工役。二十曰功賞。二十一曰推賞。二十二曰職田。二十三曰朝享。二十四曰恩封。二十五曰儀制。二十六曰禮制。二十七曰給賜。二十八曰文書。二十九曰請給。三十曰急遞。三十一曰貢獻。每門皆以二字爲題。中又分子目。皆以六字爲題。繁雜昏亂。殊不足觀。其曰金玉新書者。殆取金科玉律之意。立名亦未雅馴也。

とあり、錢大昕の「補元史藝文志」史部刑法類に

金玉新書二十七卷、不知撰人。

とある外は、更に所見がない。兩書ともに此の書を元代の撰述と見てゐるやうであるが、茲に引用されてゐる金玉新書の逸文を仔細に點檢すれば、此の書に掲げられてゐる法令は、元代のものにあらずして、宋代のものである。即ち茲に引かれてゐる金玉新書の逸文には、内侍省、御藥院等の官廳の名が見えるが、これらの官廳はいづれも南宋にあつて元にはなかつた官廳であつて、元代特有の官廳たる行省の如きものは一として見えない。急遞鋪の制度は、宋會要や宋史にも見えるから、宋代からあつた制度であることに疑ひなく、急遞鋪の見える故をもつて、此の書を元代のものと考えなければならぬといふ理由はどこにもない。此の書の門目が、慶元條法事類の門目と酷似してゐること、及び此の書名が政和五禮新儀、熙寧新編、常平勅等と一脈の類似をもつてゐることも、亦此の書の南宋の撰述なることを傍證するものである。陳氏の直齋書錄解題の嘉泰條法事類の條には、

初吏部七司有條法總類、淳熙新書既成、孝宗詔、倣七司體、分門修纂、別爲一書、以事類爲名、至是以慶元新書、修定頒降、使得便於檢閱。

とあるから、宋元には、現行法令のことを新書といつたことが知られる。故に金玉新書は、即ち現行の金科玉律の意であることが知られる。又茲に引かれてゐる金玉新書の文に見える刑罰が、唐

律のそれと同じく、笞は十より五十に至る五等であり、杖は六十より一百に至る五等であることも、亦此の書を宋代のものとする見解に適合する。元代に於いても、文宗以後には、刑法が漢化して唐律と間違へられるやうになつたが、それまでは蒙古の古俗を存して、笞は十七より五十七に至る五等、杖は六十七より一百七に至る五等であつて、笞杖の各等に蒙古人の尙ぶ七なる端數がついてゐた。故に金玉新書が元の法令書であるならば、玆に引かれてゐる逸文の刑罰にもこの端數がついてゐなければならぬ等である。又永樂大典卷一萬四千五百七十五を検するに、急遞鋪の條に最初に引かれてゐるものは、事物紀原であり、次に宋續會要であり、次に金玉新書である。而して金玉新書の次には、宋の趙清獻公集及び汪玉山集、胡文公集があつて、その次に金史、元史がきてゐるから、永樂大典の編纂者は、金玉新書を宋代の書物と認めてゐたことが推斷される。何となれば永樂大典の編纂者は、同じ項目の下にあつては、宋、金、元の順序に文獻を引用してゐるからである。故に四庫全書總目提要が、これを元時代の撰述を見たのは、不經の致すところであつて、此の書は正に宋代の撰述といふべきである。錢大昕が「補元史藝文志」の中にこれを入れたのは、名公書判清明集を元代の撰述として「補元史藝文志」總集類に收めたのと同様に、錢氏の一失といはねばならない。

經世大典は、元の文宗の至順三年に成つた一種の法令全書であつて、大元一代の朝章掌故は擧げ

て此の一書にあり、元史の志類の如きは、いづれも此の書の拔萃に過ぎずといはれてゐる。本書の編纂に關しては、元史文宗本紀、天曆二年九月戊辰の條に

勅翰林國史院官同奎章閣學士、采輯本朝典故。準唐宋會要。著爲經世大典。  
と見え、更に同本紀、至順二年二月庚寅の條には、

以修經世大典久無成功。專命奎章閣阿隣帖木兒。忽都魯都兒迷失等。澤國言所紀典章爲漢語。  
纂修則趙世延、虞集等。而燕鉞木兒如國史例監脩。

とあり、又同書、卷百八十、趙世延傳には、

至順元年、詔世延、虞集等、纂修皇朝經世大典。

とあり、又元史類編、卷九、文宗皇帝紀には、

(至順元年二月)庚寅、命奎章閣、譯國朝典章爲漢語。入經世大典。趙世延、虞集等、專任纂修。  
(中略)五月乙未、奎章閣學士院、纂修皇朝經世大典成。

とあり、又新元史、文宗本紀には、

(至順二年五月乙未)奎章閣大學士趙世延等、進呈皇朝經世大典。

とあり、又元朝典故編年考、卷七には、

至順三年、纂修經世大典成。二月朔日、詞臣歐陽玄進表云。

云々とあり、又錢大昕の補元史藝文志には、

經世大典八百八十卷。目錄十二卷。公牘一卷。纂修通議一卷。至順三年二月進。

云々とある。即ち前掲の文に據れば、經世大典は、天曆二年に編纂に着手し、至順二年に趙世延、虞集等が纂修經世大典事となり、燕帖木兒が名義上總監の任に就き、翌三年二月に脱稿したもので、本文八百八十卷、目十二卷、外に公牘、纂修通議各一卷といふ大部な書物であつたことが知られる。此の書今亡んで傳らないが、その進表と序録とは、蘇天爵の編した「元文類」に見えてゐる。

進 經 世 大 典 表 至順三年  
三月進

歐 陽 玄

堯舜之道 載諸典謨 文武之政 布在方冊。道雖形於上下。政無閒於精粗。特於紀錄之間。足見彌綸之具。是以秦漢有掌故之職。唐宋有會要之書。予以著當代之設施。予以備將來之考索。我國家受命龍朔。續休鴻基。發政施仁。行葦之忠厚。世積制禮作樂。關雎之風化日興。紀綱具舉於朝廷。統曾未歸於簡牘。欽惟欽天統聖至德誠功大文孝皇帝陛下。總攬群策。躬親萬幾。思祖宗創業之艱難。與天地同功。於經緯必有鋪張。以揭皦日。必有述作。以藏名山。爰命文臣。體會要之遺意。徧勅官寺。發掌故之舊章。倣周禮之六官。作皇朝之大典。臣某叨承旨諭。俾綜纂修。物有象而事有原。質爲本而文爲輔。百數十年之治蹟。固大略之僅存。千萬億世之宏規。在鴻儒之繼作。謹繕寫皇朝經世大典八百八十卷。目錄十二卷。公牘一卷。纂修通議一卷。裝演

成帙。隨表以聞。伏取進止。

右の進表にも見ゆる如く、經世大典は、唐宋の會要並びに周禮六官の體に倣つて作られたといふから、此の書の體裁は、六官の體に倣つて律令格式の要文を配置せんとした唐六典の最初の計畫に加へるに、會要の事例を各條下に添附した一種獨特の體裁を創製したものとなつた。此の法典の形式は、次代に承け繼がれて大明會典となり、更に次代に承け繼がれて大清會典、大清會典則例、大清會典事例となり、又朝鮮に繼受せられて經國大典となり、安南に繼受せられて大越大典ともなつた。

### 經世大典序錄

欽惟欽天統聖至德誠功大文孝皇帝。以上聖之資。纂承大統。聰明睿知。度越古今。至讓之誠。格于上下。重登大寶。天命以凝。於是闢延閣。以端居守中心之至正。慨念祖宗之基業。旁觀載籍之傳聞。思輯典章之大成。以示治平之永則。迺天歷二年冬。有旨命奎章閣學士院。與翰林國史院。參酌唐宋會要之體。會萃國朝故實之文。作爲成書。賜名皇朝經世大典。明年二月。以國史自有著述。命閣學士。專率其屬而爲之。太師丞相答剌罕。太平王臣燕帖木兒。總監其事。翰林學士承旨大司徒臣阿鄰帖木兒。奎章閣大學士臣忽都魯篤實。奎章閣大學士中書右丞臣撒迪。奎章閣大學士太禧宗禋使臣阿榮。奎章閣承制學士僉樞密院事臣朶來。並以耆舊近臣習於國典任提調焉。中書左丞臣張友諒。御史中丞臣趙世安等。以省臺之重表。率百司簡牘。具來供給。無

匱至於執筆纂修。則命奎章閣大學士中書平章政事臣趙世延。而貳以臣虞集。與學士院藝文監官屬。分局修撰。又命禮部尙書巖燮。擇文章儒士三十人。給以筆札。而繕寫之。出內府之鈔。以充用。是年四月十六日。開局。做六典之制。分天地春夏秋冬之別。用國史之例。別置蒙古局於其上。尊國事也。其書悉取諸司之掌故。而修飾潤色之。通國語於爾雅。去吏牘之繁辭。上送者無不備書。遺亡者不敢擅補。於是定其篇目。凡十編。曰君事四。臣事六。君臨天下。名號最重。作帝號第一。祖宗勳業具在史策。心之精微。用言以宣。詢諸故老。求諸紀載。得其一二於千萬。作帝訓第二。風動天下。莫大於制誥。作帝制第三。大宗其本也。藩服其文也。作帝系第四。皆君事也。蒙古局治之設。官用人共理天下。治其事者。宜錄其成故。作治典第五。疆理廣袤。古昔未有人民貢賦。國用繁焉。作賦典第六。安上治民。莫重於禮。朝廷郊廟。損益可知。作禮典第七。肇基建業。至于混一。告成有績。垂遠有規。作政典第八。政刑之設。以輔禮樂。仁厚爲本。明慎爲要。作憲典第九。六官之職。工居一焉。國財民力。不可不慎。作工典第十。皆臣事也。以至順二年五月一日。草具成書。繕寫呈上。臣集等。皆以空疎之學。謬叨委屬之隆。才識既凡。見聞非廣。或疎遠不知於避忌。或草茅不識於憂虞。諒其具藁之誠實。欲更求是正。疎略之罪。所不敢逃。竊觀唐會要。創於蘇冕。續於崔鉉。至宋王溥。而後成書。宋會要始於王洙。續於王珣。至汪大猷虞允文。二百年間。三修三進。竊惟祖宗之事業。豈唐宋所可比方。而國家萬萬年

之基。方源源而未已。今之所述。粗立其綱。迺若國初之舊文。以至四方之續報。更加搜訪。以待增修。重惟纂述之。初猷實出聖明之獨斷。假之以歲月。豐之以廩餉。給之以官府之書。勞之以諸司之宴禮。意優渥聖謨孔彰。而纂修臣僚貪冒恩私。不稱旨意。不勝兢懼之至。惟陛下矜而恕之。謹序。

右の序録に據つて知られる如く、經世大典は、君事四、臣事六の十篇に分たれ、各篇はまた數箇の項目に分たれてゐた。さうして其の各篇、各項の首めに又夫々小序があつた。その小序も、元文類に掲げられてゐるが、餘り煩しくなるから、茲には引かない。元文類の小序に依つて、經世大典の目録を作れば、次の如くである。

第一篇 帝號

第二篇 帝訓

第三篇 帝制

第四篇 帝系 帝系附録

第五篇 治典 治典總叙 官制 三公 宰臣年表 各行省 入官 補吏 儒學教官 軍官 錢

穀官 投下 封贈 承蔭 臣事

第六篇 賦典 賦典總序 郡邑 附録安南 版籍 經理 農桑 賦稅稅綱 賦稅夏稅 賦稅科差



海運 鈔法 附錄鈔法 金銀珠玉銅鐵鉛錫鑿蠟竹木等課 鹽法 茶法 酒醋 商稅 市舶

宗親歲賜 俸秩 公用錢 常平義倉 惠民藥局 市糴糧草 蠲免恩免差稅 蠲免災傷免差稅

賑貸 京師賑糶糧 紅帖糧 賑貸各處災傷賑濟

第七篇 禮典上 禮典總序 朝會 燕饗 行幸 符寶 輿服 樂 曆 進 講 御書 學校

藝文 貢舉 舉遺逸 求言 進書 遣使 朝貢 瑞異

禮典中 郊祀 宗廟 社稷 岳鎮 海瀆 三皇 先農 宣聖廟 諸神 祀典 功臣祀廟

謚 賜碑 旌表 禮典下 釋道

第八篇 政典 政典總序 征伐 平宋、高麗、日本、安南、雲安、建都、緬、占城、海外諸藩、瓜哇、平倒刺沙 招

捕 軍制 軍器 教習 整點 功賞 責罰 宿衛 屯戍 工役 存恤 兵雜錄 馬政 屯

田 驛傳 弓手 急遞鋪 祇從 鷹房捕獵

第九篇 憲典 憲典總序 名例篇 衛禁篇 職制篇 祭令篇 學規篇 軍律篇 戶婚篇 食貨

篇 大惡篇 姦非篇 盜賊篇 詐僞篇 訴訟篇 鬪毆篇 殺傷篇 禁令篇 雜犯篇 恤刑

篇 平反篇 赦宥篇 獄空篇 附錄

第十篇 工典 工典總序 宮苑 官府 倉庫 城郭 橋梁 河渠 郊廟 僧寺 道宮 廡帳

兵器 鹵簿 玉工 金工 木工 搏埴之工 石工 絲枲之工 皮工 氍毹 畫塑 諸匠

經世大典の材料は、序録に「其の書之を悉く有司の掌故に取りて、之を修飾潤色す」とある如く、これを諸官廳の記録古文書に取り、「上送する者は書を備へざるなく、遺亡する者は敢へて擅に補はず」といへる如く、典據のないものは、敢へて意をもつて補はなかつたらしいが、その材料となつた諸官廳の記録の中で、最も主なるものは、元典章であつたらしい。元典章は、その正名を「大元聖政國朝典章」といひ、成宗の大徳年中に編纂の議があり、仁宗の延祐年間に編纂を終り、英宗の治世に頒行された元の法令集であつて、やはり六典、會要の體に倣ひ、吏、戶、禮、兵、刑、工の六門に分つて、關係の法制、詔令、判決例等を収録したものである。前掲の經世大典の目録と元典章の目録とを比較對照してみると、經世大典は、元典章に依つて元典章の上に出たものであることが觀取せられる。英宗の至治三年には、元李求狝等によつて「大元通制」なる法典が編纂せられたが、これらの書も、經世大典の材料となつたことは疑がない。併し、元典章に録せられた公文書的大部分は、蒙古語を漢譯したものや、當時の俗語を用ひた口語體の文章であつて、頗る難解ではあるが、元代の吏牘の研究に有益な資料を提供するものである。經世大典に於いては、前掲の序録に「國語を爾雅に通じ、吏牘の繁辭を去る」とある如く、蒙古訛りの漢文を改めて、純雅なる漢文とした。故に文宗は、曾て此の書を見て、これ豈唐律にあらすやと言つたといふことが、元史卷百八十一の揭傒斯傳に見えてゐる。經世大典はそれほど體裁の整つたものであるが、またそれだけ蒙古

の國粹主義の衰へた元朝末期の記念物だともいへる。元史の志類が、經世大典の拔萃に過ぎないことは、文學博士市村鑽次郎氏が曾つて故箭内巨博士の「蒙古史研究」の中で力説せられたところであるが、その事は、本書に掲げた經世大典の急遞鋪の文と、元史卷一百一、兵志の急遞鋪兵の文とを比較してみても、これを斷言することができる。

永樂大典卷一萬四千五百七十五、急遞鋪の條の引かれてゐる金玉新書の文が、四庫存目に見える金玉新書の目録の第三十門急遞の文であり、又そこに引かれてゐる經世大典の文が、元文類に見える經世大典の目録の第八篇政典中の急遞鋪の文であることは、疑ひなきところである。併し、永樂大典に引かれてゐる兩書の文が、原文の儘なりや、はた又原文の省略文なりやは、疑の存するところである。王國維は、廣倉學窘叢書の「大元馬政記跋」に於いて

蓋明修大典、己有刪節、非原書也。

といつてゐるが、余の見るところでは、大した刪節があるとも思はれない。故に本書に掲げた兩書の逸文は、大體原文に近いものと考へて差支ないと思ふ。急遞鋪は、主として機密の文書を遞送する爲めに設けられた驛傳であつて、その站赤、即ち元代の普通の驛傳と異なる點は、文書以外の荷物を遞送せざること、牛馬を用ひずして専ら人の脚力に依ること等にある。従つて急遞鋪の遞送手續は、站赤のそれよりも嚴重であり、又その稽留の罪も、站赤のそれよりも重い。世祖忽必烈の時代

に、開平府即ち上都から燕京即ち北京に至る間に急遞鋪を設けたのが、元代に於ける急遞鋪設置の初めで、その站鋪と站鋪との間は、短いものは十里、長いものは二十五里に及び、站鋪に置く鋪兵の數も文書往復の繁閑に依つて差等があつた。文箱を擔いで走る鋪兵は、健脚の者を選び、一晝夜に四百里を走らしめた。その走る鋪兵は、腰に革帶を締め、肩に鈴を懸け、手に槍を持ち、雨具を留意し、夜は松火をもつて、エイヤ聲して勇ましく馳けた。その鈴音を聞く者は、遠くから道を避け、その鈴音の及ぶところの站鋪は、出でてその至るを待たねばならなかつた。本書に見える急遞鋪の紀事は、東洋文庫から影印された「站赤」と相並んで、元朝の驛制を徵すべき根本史料である。羽田博士が、前述の「元朝驛傳雜考」の中で

こゝに驛站と關聯して論述してみたいのは、元代の急遞鋪 至元二十年からは、公けには通遠鋪と稱した——の制度である。站と急遞鋪との兩制度が、類似の目的を有することは、元史のこの兩編に附した前序——實は經世大典のこれらの兩門に附した前序といふべきであらうが、經世大典の急遞鋪に關する記事は、今見るを得ないから、致方ない次第である——中の文字を比較して見ても明かである。

といつて居られるのを見れば、本書の逸文が、宋元の驛制の研究にとつて、いかに重大な價値を有する史料であるかが理解されよう。

附記 余が滿鐵大連圖書館に於いて、嘉業堂舊藏の永樂大典を見て、そこに學界未見の經世大典の逸文や、金玉新書の逸文のあることを發見したのは、支那事變の起る前の年であつたと思ふ。當時は、排日の氣風の激しいときであつたから、舊所藏者の迷惑を考へて、此の書の大連にあることを發表してくれるなといふ注意があつたので、寫し取つてこれを研究してみようといふ氣も起らず、終に數年を過してしまつた。今年五月、大連に出張の際、餘暇をさいてその一部を寫したが、貴重本である爲めと、その借覽の時間に制限がある爲めに、皆まで寫しきらず、同館司書大佐三四五氏に補寫を依頼して、新京に歸つた。本書載録の兩書の原稿は、その一半が大佐氏の筆寫になるものである。茲に特記して謝意を表する。嚴密に原本との校合を行ふ暇のなかつたことは、返す返すも心残りであるが、原本の影印が出版せられるまでは、これで間に合はしておくより致方があるまい。

(昭和十五年十二月記)

永樂大典、卷一萬四千五百七十五、六暮、鋪字

急遞鋪條所引「金玉新書」及「經世大典」本文

原文宋書  
金玉新書

諸急腳馬遞鋪。每二十人補節級一名。人數雖不及。亦補一名。不及十人。

鄰近兩鋪共補一名相去二十里以上者。各補。並以無疾病不曾犯盜或徒刑及非配到人。

依次排遣。其馬鋪節級勿給。諸急腳馬遞鋪。各差小分一名充曹司。無即招填其大分。

願減充者聽。諸急腳馬遞鋪兵級五人爲一保。不滿五人者附保。諸招急腳馬遞鋪兵。

先本處人。無即招鄰鄉村人。又無本縣鎮若鄰縣人年十六以上無疾病人充。不許揀填。

別軍。雖奉朝特旨衝改條禁指揮揀填。亦不得發遣。諸招急腳馬遞鋪兵。經歷干繫本。

轄人。家人受乞減剋投軍人財物。依正身法。與者杖一百。與經歷干繫本轄人准此。

諸招急腳馬遞鋪兵。不預錄減剋受乞投軍人財物法曉諭及榜旗下者。杖八十。致犯人。

應配者。加二等。諸急腳馬遞鋪應用條制每鋪板榜曉諭巡轄使臣以時檢舉。諸急腳馬。

遞鋪兵級曹司將所傳制書。或諸軍補授文帖。賣與人齎發。并買之者。各徒二年。餘  
文書減二等。並許人告。諸馬遞鋪藏匿人馬。罪賞條格。本縣檢舉。出榜縣鎮鄉村道  
店曉示。諸急脚馬遞鋪。干擊人受乞減剋鋪兵財物者。徒一年。一伯文徒一年半。一  
伯文加一等。罪止徒三年。許人告。告獲急脚馬遞鋪。干擊人受乞減剋鋪兵財物者徒  
一年。錢三貫每等加三貫。賞應重者從重。諸質買急脚馬遞鋪兵級曹司月糧。放債與其  
家者同。依放債法。其曹司質買本鋪兵諸給賞賜者准此。若家人放債與本鋪兵依節級  
家人法。以上財物不追。並許人告。諸馬遞鋪藏匿人馬。不供換者。杖一百。改救重  
難遞鋪。知藏匿而爲容留隱避者。減犯人罪一等。並許人告。容留二人匹以上。謂二  
人一匹之類。鄰保及地分巡察人。知而不告者。杖六十。其於空僻之處。窩控之類同。  
隱藏地分巡察人知而不告者。罪亦如之。諸遞鋪鋪兵。告獲馬鋪藏匿不供換人馬者。  
給所告獲馬。改充馬鋪。諸馬遞鋪藏匿人馬。不供換應備賞。而有知情容留隱避者。

其錢均理。諸急脚馬遞鋪兵承傳文書稽違。或曹司承受遞角積留不遺。節級知而不舉。及失覺察同。杖罪應解縣者。限一日推。斷。徒以上徑申送州。限五日推。斷訖。並押回本鋪。犯人該移降。或配。即先權差廂軍填闕。告獲馬遞鋪藏匿人馬不供換。若知藏匿而爲容留隱避者。每人或馬每匹。賞錢五貫。諸遞馬額闕巡轄。使臣當日申州限二日給填。無官馬者。委本縣令和買。仍限三日。約度。合用價直。以轉運司錢棒管。不足聽於諸色官錢內借椿。諸急填遞馬。當職官體度。正路緊急馬鋪先支。餘以次給。仍並送所屬令佐親臨分探給之。諸軍及遞馬病。自申報日給草料四分。損日依舊。非臟腑病者全給。謂如失節患眼背瘡疥癰之類。馬鋪節級所管馬。至歲終無驢。減致死者錢三貫。所管不滿十匹者。減半。諸急脚馬遞鋪。因州縣鎮寨興廢。或道路更易。及官物文書隨事多寡。而鋪兵遞馬有餘。或不足者。聽巡轄。使臣申州。量事那移。即不得抽差它役。差本城代者同。獲馬鋪收得別鋪官馬。隱藏過五日不申官。或雖在限內而



殺者。賞錢三十貫。諸馬鋪收得別鋪官馬。隱藏過五日不申官者。計贓從盜法。即雖在限內而殺者。以盜殺論。配千里。諸軍及馬鋪走失官馬。三十日尋訪不得者杖一百。限外未決而得。及佗人得者除其罪。諸知情買馬鋪兵級。盜賣遞馬。或受贓者以盜論。各計己分。知而爲藏。若質賣者減二等。許人告。諸馬鋪供馬。不依曆內次差撥者。曹司節級馬主各杖八十。即乘遞馬。而隔越差占不聽執覆者加二等。仍許本鋪人告。諸乘遞馬。經鋪無馬差換。須越過至前路州縣鎮鋪。又無馬不即報所屬和願替換。而輒乘元馬越過。及官司不爲願者。各徒二年。合破遞馬鋪兵。請所至鋪。分應替換而受乞財物。計贓輕者准此。諸馬遞鋪遇別補人馬越過者。應借支日給口食草料。而不即時給。或減剋罪輕者各杖一百。移重難鋪。諸急脚馬遞鋪。大小曆印給違限。若本鋪輒差赴所屬請領者。各杖一百。諸馬鋪州給木條印。責付曹司節級專掌。唯因越過而關報則用之。每歲一易。舊印送州毀。諸遞鋪承轉上供物樣。違一時笞五十。一日加一

等。罪止徒一年。曹司節級失覺察。而犯人至罪止者杖八十。巡轄使臣減一等。州縣巡察官司催發人減二等。巡檢縣尉各又減一等。諸急腳馬遞鋪曹司節級差鋪兵不依名次者。徒二年。共犯者。節級雖非造意。仍爲首。皆降配重難遞鋪。諸應差遞鋪兵而過數。及不應差而差。差受同。若差遞鋪槍擊而輒役急腳鋪兵或曹司節級者各徒二年。諸馬遞鋪供差遞馬鋪兵。應取文書驗實而不取驗者。杖八十。諸乘遞馬而將曹司節級隨行者。杖一百。諸急腳馬遞鋪兵級曹司。差佗役者。輒以承受發下遞角爲兵差占鋪兵同。各徒二年。發遣官司減二等。諸急腳馬遞鋪兵。輒受雇若別作營運妨執役者。各杖一百。知而雇之者。及曹司節級容縱與同罪。諸急腳馬遞鋪兵級曹司。輒令家人。或雇倩人代名。及對換承傳。若受之者各杖八十。所代人有犯依正身。法內枉法自盜。罪至死者。減一等配本州。殺傷人者。以凡人論。即盜匿棄毀私拆稽留者。正身雖不知情。減犯人一等。諸官司差借。或占留急腳馬遞鋪兵級承領文書。及搬擔官司物。物主亦借之。

者。各杖一百。搬擔一伯斤徒一年。每一伯斤加一等。罪止徒二年。官物減一等。其應承傳官物而夾帶者。物主及巡轄。使臣兵級曹司知情罪亦如之。即失檢點者。每五十斤笞四十。五斤加一等。罪止杖一百。仍止坐初承受鋪。諸急脚馬遞鋪兵。及曹司闕額。不依限申州及本州差撥。無故違限者。干繫官吏。各徒一年。十日以上。加二等。諸急脚馬遞鋪底本印簿。官司輒取索離鋪。若供送者各杖一百。若巡轄。使臣至兩界鋪分。不取索鄰界一鋪文曆點檢。及鋪兵曹級避免點檢。妄稱諸處取索前去准此。仍許兩界提舉司覺察。諸馬遞承傳文書。違一時杖八十。一日杖一百。二日加一等。罪止徒三年。配五百里重役處。致有廢闕事理。重者奏裁。急脚遞各遞加二等。步遞減馬遞五等。諸急脚遞承傳御前不入鋪及金字牌文書。而違不滿時者杖一百。一時徒一年配五百里。每一時加一等。至徒三年止配千里。並重役處。致有廢闕事理。重者奏裁。曹司節級失覺察杖一百。巡轄使臣減一等。諸急脚馬遞鋪兵級逃亡。及首獲

者。本鋪即時申所屬。又巡轄。使臣限次日申提舉官。諸急脚馬遞鋪曹司節級容留衝要鋪逃亡人。冒承名額充役。而受乞財物。計贓輕者降配。重難遞鋪。諸傳送軍期重害機密遞角。而盜拆者。斬請求或教令開拆窺看者各准此。以上並奏裁。仍許人告。諸急脚馬遞鋪送文書封印有損。或失外引牌子。若亡失文書。傳遞官物。無人管押。而裏角封印損失同。所至鋪。分輒遣越過者。因損失而妄作關人越過同。曹司節級各杖一百。本轄。使臣。或隨處州縣。承鋪兵陳告不爲愛理者。與曹級同罪。即。使臣州縣應究治封印遞行。并報元發遞官司。而不即施行者。杖六十。鋪兵被遣越過而能陳告官。雖有損失非自侵盜者不坐。諸急脚馬遞鋪曹司兵級盜遞角者。徒二年。重害文書配五百里。從者配鄰州。致軍事廢闕及機密文書。仍奏裁。請求或教令盜者。各准此。諸急脚馬遞鋪曹司節級失覺察鋪兵盜匿棄毀私拆青詞黃素制書。及重害機密文書遞角者。杖一百。三犯降配。重難遞鋪。失覺察急脚馬鋪承傳文書稽遺及五次。各罪至徒。或遞鋪

五次。各罪止杖八十。諸急脚馬遞鋪曹司承受遞角。輒積留而不即遣發者。杖一百。二十角以上加一等。違時重者論。如承傳文書稽違法。節級知而不舉與同罪。失覺察減三等。罪止杖一百。諸遞鋪曹司兵級盜承傳官物。論如主守法。徒罪配鄰州。諸急脚馬遞鋪承傳遞角。每歲稽違。計數通滿五釐者。巡轄使臣縣尉各笞五十。使臣展磨勘一季。縣尉降一季名次。滿七釐各加一等。使臣展磨勘半年。縣尉降半年名次。滿一分各又加一等。使臣差替縣尉降一年名次。如曾點檢得稽違遞角及三釐者。各減一等。五釐減二等。滿一分減三等。其展減名次。磨勘差替。自依元違分釐。諸急脚馬遞鋪兵承傳遞角官物。若遞馬已至前鋪。及所詣交訖。回鋪違限一時笞五十。一時加一等。罪止杖一百。曹司節級不切檢舉者杖六十。鋪兵罪輕者。減鋪兵二等。巡轄使臣減三等。每年半曹司節級。不檢舉鋪兵違限三次者。杖一百。移重難遞鋪。巡轄使臣每歲失點檢滿三次以上。提舉官劾罪聞奏。諸急脚馬遞鋪承傳遞角官物。若遞馬已至前鋪。

及所詣交訖。不於隨身小曆批注回鋪日時者。各杖六十。即前鋪及所諸應批注而不以實者。本鋪批注到鋪日時不實同。杖一百許人告。諸急腳馬遞鋪傳送急速文字。若官物權差鋪兵充貼鋪事畢。而別差佗役者。徒一年。諸急腳馬遞鋪兵級。犯杖以上。罪情重者。急腳馬鋪降配遞鋪。遞鋪降配重難遞鋪。權差到軍人者勤歸本處重役。諸急腳馬遞鋪事非應。當官究治。及所轄官應親詣本鋪點檢。而輒勾進兵級曹司者。杖一百。諸急腳馬遞鋪兵級。所請錢糧並就本州勘給。仍委通判檢察支請日分。每月取領足狀類申轉運司。鋪兵願就縣勘給者聽。仍委縣丞檢察取領足狀申通判繳申。諸馬遞鋪量閑要預請口食草料。不得過五十人匹。縣各即曆付節級收給。別鋪人馬越過者。即時借給。其兵給口食日給二升。仍批小曆。限次月五日前。具鋪分姓名數目。開報剋納草料限三十日。若請到經一年。據數中所屬。於本鋪兌換。巡轄使臣及本屬州縣官點檢。諸急腳馬遞鋪兵級衣賜造成。赴官印驗。諸急腳馬遞鋪曹司節級。遇傳送文書官物。

擁併而逃亡者。徒一年。首身減三等。移重難鋪。曹司仍充大。分鋪兵。諸急腳馬遞鋪兵逃亡事故闕。本鋪限一日申州。不滿二十人限三日。二十人以上限五日。五十人以上限十日。權差廂軍。配軍非。不足者申轉運司。於閑慢不當路州差。並三年一替。搬擔並瘴煙處。一年一替。候有鋪兵依元差名次先替。其不願替者聽。諸實買急腳馬遞鋪兵級曹司月糧。并放債條約。本縣每季檢舉。逐鋪曉示。諸緣河隄鋪頭。輒令傳送非河掃文書者。以違制論。巡河官吏不點檢。減三等。諸遞鋪。廂軍及和顧人同。承傳三路出軍衣。違一日杖六十。一日加一等。罪止杖一百。曹司節級失覺察。而犯人至罪止者杖六十。巡轄使臣減一等。即稽留致給散失時。事理重者。并所屬官吏。取勘聞奏。諸招急腳馬遞鋪兵。例物轉運司約度。計置印曆。給付所委官。於所在州縣收附。住招月繳磨付本司驅磨。諸急腳馬遞鋪管房。馬屋同損闕。曹司節級。當日申縣令尉依一日檢計申州。併功修葺。遇替移交割有未修者。舊官修畢聽。離任。每季具

申到損闕。及興修畢功。日日申提舉官點檢。諸急腳馬遞鋪管舍。有家屬許占一間。諸遞鋪傳送人者。日行不得過六十里。仍宿於鋪。諸急腳遞承傳御前不入鋪及金字牌文書。並日行五百里。不以晝夜鳴鈴走遞。前鋪聞鈴。豫備人出鋪就道交受。諸急腳遞承傳御前不入鋪及金字牌文書。月終通判驅磨。無稽違者。毋季具承待鋪兵姓名。傳過角數保明中州。驗實給特支錢。其巡轄使臣任滿。通所管鋪催傳及二十角以上。驛字所在州申會本路提舉官。委無稽違。類聚保奏。仍於奏狀稱說會到因依。諸應入急腳馬遞鋪文書。並當官實封不題事目。止排字號。及題寫官司遺發限日時。用印以蠟固護入筒。遂鋪驗封印及外引牌子。交受傳遞。如有損失。所至鋪分押赴本轄使臣。或所屬州縣究治。即時封印。其公文遞行亡失文書者。速報元發遞官司。即傳遞官物無人管押。而裹角封記損動者。並准此。以上因封印之類者。損失而轍遺越過者。因損失而妄作闕人越過回。聽鋪兵經本轄使臣。或隨處州縣陳告。仍聽所至官司覺



察點檢。中本路所屬監司。究治犯處。非本路者。具事因中尚書兵部。諸急脚馬遞鋪兵級曹司藏匿棄毀遞角者。以盜論。私拆者。徒一年。許人告。已拆而自。首減二等。致軍事廢闕。及機密文書。仍奏裁。請求教令藏匿棄毀私拆者。各准此。諸發急脚馬遞。遞所屬每色置籍抄上。州用印。半年一易。即文書應。入急脚馬遞者。以皮角步遞。以紙捐角。各題某遞字。諸急脚馬遞鋪曹司承受遞角。並據數即將遣發。不得積併傳送。節級常切檢察巡轄。使臣所至取曆點檢。諸遞角不得附帶佗物。命官因步遞許附書。仍於內引批鑿注曆發放。不得開拆。本家以書寄。命官者亦許附遞。諸發急脚馬遞文書赴樞密院入內。內侍省御藥院并應申提點刑獄司詳覆。若本司報決公案。各以前後發數次第。具書爲引。仍以二本具發遞處。及年月日時。事目件數。印書同入遞承受處。限。當日以到。發月日時批注一本。依元遞發回。計程過期。未見批回者。究治。諸急脚馬遞鋪傳送急速文書。若綱運。般傳。崎零官物同。而闕人者。申本州於轄下。

鄰近。不係本路鋪分。權差鋪兵貼鋪舉官事畢依舊。不得充佗役。諸急腳馬遞鋪兵承傳遞角官物。及遞馬已至所詣而回者。並依步遞計里。諸急腳馬遞鋪兵承傳遞角官物。及遞馬以至前鋪交訖。曹司節級即時於隨身小曆批注回鋪日時。至所詣元鋪者。官司或乘遞馬人批。通判路分。都監以上。隨行人批。本路曹司節級驗曆批到鋪日時。如違時限。送本縣究治。巡轄。使臣及縣尉常切提轄。取曆點檢。諸遞鋪運送官物。所屬縣給印曆。令管押人親書職次姓名。到鋪日時官物名色送納去訖。合使人車數目即應越過或值亦併合候資次者。方各具注事因。巡轄。使臣及季點官。點檢其曆季易。諸州通判歲終。以巡轄。使臣縣尉所管界內急腳馬遞鋪。承傳遞角總數。驅磨稽違名件。率計分釐。限三十日保明申州。州限五日審實申提舉官。巡轄。使臣管兩州以上者。通判磨訖。報麻字所在州率計分厘中。若稽違五釐者。究治如法。即任滿。謂成資以上。不及三釐。提舉官保奏。諸遞送青詞黃素制書。於外引及封角書所遞名件。逐依所書錄大小曆。差節

級監送。闕者差二人共送。諸遞鋪傳送青詞黃素祝板並擇潔淨處安置。諸急腳馬鋪鋪兵。不得令運送官物其遞鋪承傳文書。亦不得令附帶佗物。即應運送官物。均量輕重。日不過兩次。十里以下。及軍期急速者非。錢不在運送之限。諸盜匿棄毀私拆亡失。應經由進奏院遞角者。巡轄使臣即時申門下後省。獲犯人准此。諸擅發急腳遞馬遞者。巡轄使臣奏。諸緣公事不應發遞而文書須遞者。聽申牒所在官司入遞。諸急腳馬遞鋪。傳送文書綱運及供差人馬。所屬隨曆別給印簿作底本。每日隨事與曆對行一轉。遇官司取曆點檢。即分明具注於簿。俟給曆還鋪。排日謄上。諸赦降入馬遞者行五百里。其文書事干外界。蕃夷入貢要速文書。不可入馬遞者同。或軍機。若朝旨支撥借兌急切備邊錢物。或非常盜賊。收捕強盜十人以上。或雖不及十人。而兇惡者同。奏按往還朝旨專差官置司鞠獄申奏。及取會文書。若催會奏案。及批回奏按內引。并歿於王事。及諸軍出戍因戰鬪陷歿。或收身不到。未見存亡。應取會公文。若逃亡軍人首。獲會問計程二千里以上。

及案獄應申提點刑獄。詳覆報決。會問往回同。入急腳遞日行人伯里。要速。騰報救降照會。及報賊盜文書。或朝。廷封樁錢物。應取會回報。或兌便錢物。事于急速。并糴買糧草。所展價報。所屬或命官陞改官。盜若舉辟。應行文書申發軍帳。并緣急腳馬遞鋪事亦同。人馬遞日行三伯里。常程入步遞日行二伯里。諸急腳馬遞鋪事。非應。當官究治者。止令就鋪供報。不得輒勾兵級賣司。即所轄官應點檢並親詣鋪。亦不追得撥。諸官物應傳送而遇無遞鋪處。聽計置人車致就遞鋪。諸急腳馬遞鋪承傳文書官物。或由水踏而遇風濤。若泛漲之類。不可行渡者。處阻滯及離彼日時。批上小曆監渡或所屬官書押。或到鋪贍入大曆。巡轄。使臣點檢。諸急腳馬遞鋪給大曆人給小曆。急腳鋪。別給御前急遞。及尙書省。樞密院。入內內侍省。御藥院。往還小曆。本州預於前一月中旬。以官紙用印遞付逐鋪節級分授。遇有傳送以入時名數抄上大曆。贍入小曆。其御前急遞。并尙書省。樞密院。入內內侍省。御藥院。經略安撫都總管司。急遞文書。及夜過險惡道路。謂

山坂險峻。河澗泛漲。或有猛獸之類。並差二人。送前鋪交訖。具時辰批回。闕人應越過者。逐鋪批錄事因及發遣日時。巡轄。使臣并本縣尉到鋪點檢稽違。次月一日納本州。當日委通判磨勘。限十日畢。具有無稽違。并巡轄。使臣縣尉曾無檢察書曆報州。仍封曆同送本州架閣。及申提舉官。季一點檢。其逐州縣并巡轄。使臣界首鋪。每季互相取曆磨勘。諸遞送官物。不得於鄉村道店宿止。仍委巡轄。使臣常切點檢。諸急脚馬遞鋪巡轄。使臣。或縣尉到鋪。並於曆內書所到月日。及點檢違滯事因。諸急脚馬遞鋪兵級。遇揀並分番勾抽。應減充剩員者。於本城下收管。願放停者聽。諸急脚馬遞鋪曹司逃亡事故闕。本鋪限一日申州。月下差撥。又闕聽權差廂軍。並差識字人充配軍非。候招到人替回。諸州縣鎮寨季點官。因點檢而經由急脚馬遞鋪者。並檢察。私收冒名人送所屬推治。不檢察者。提舉官謂所差監司。除條急脚馬遞鋪。移提舉官准此。按劾。諸巡轄馬遞鋪。使臣傳送印記者。預報前路。使臣赴界首交受。闕官或出巡者。

即報所屬州。差使臣逐州傳至有處。候至長官受給。仍先附帳限三日。具審磨附帳狀二本。連中尙書禮部。諸巡轄馬遞鋪。使臣出巡於廨宇所在州。差小分一名充曹司。無即差大分。諸急腳馬遞鋪兵級曹司。藏匿棄毀遞角者。以盜論。諸急腳馬遞鋪兵闕。而巡轄。使臣招到者。限。當日押赴所屬州縣。即時刺填。當官支給例物。仍申轉運司。及報招兵官。諸急腳馬遞鋪大小文曆。次月應納本州。及通判磨勘。違限者一日各杖八十。十日加一等。罪止徒二年。諸急腳遞不應。發而發者。徒二年。馬遞減二等。步遞又減一等。應步遞而擅發者。各減不應。發罪三等。以上官司及本鋪兵級曹司。知情承受而遞行。若承受遞到不應。入急腳遞。文書不點檢。闕所屬根治者。各減犯人罪三等。諸承受遞到御前文字。過三日不具收領日時。同金字牌子封報入內侍省者。杖一百。諸急遞鋪承領文書。外引不指定入急腳遞。而輒承受遞行者。杖一百。諸自川峽路之官罷任及服闋。應差遞鋪鋪兵。而於令有違者杖一百。若過數及不應。

差而差者。自依本法。諸急脚馬遞鋪兵級。犯盜。及殺人。強姦。略人。放火。發家。或棄屍水中。若博賭財物。藏匿盜。或盜匿棄毀私拆遞角。同保及本轄節級知而不糾者。各減犯人罪一等。不知情減三等。罪止杖一百。諸急脚馬遞鋪兵級曹司犯罪。州縣推。斷無故違限。若犯人該移降或配。不先權差廂軍填闕者。各杖一百。十日以上。徒一年。諸遞角。輒計囑盜拆藏匿棄毀。其鋪兵如能告首。雖已開拆藏匿。而告者同。將所受錢物。並與充賞外。仍依告獲格給賞。告獲急脚鋪。無故不即時交割文書。或行用錢物令越過。及受財而爲越過者。錢三十貫。告獲急脚馬遞鋪承傳遞角官物。若遞馬已至前鋪。及所詣交記。批注回鋪日時不以實者。本鋪批注到鋪日時不實同。錢一十貫。告獲急脚馬遞鋪曹司兵級。將所傳制書。或諸軍補受文帖。賣與人齊發。及買之者。錢三十貫。餘文書減半。諸急脚鋪兵。傳過御前不入鋪金字牌文書。無稽違者特支錢。每人五角以上五百文。十角以上一貫。二十角以上一貫五百文。三十角以上一

貫。告獲傳送軍期重害機密遞角盜拆。又請求或教令開拆窺看者。轉一官。告獲急脚

馬遞鋪曹司兵級盜匿棄毀私拆遞角。非制書重害。及機密文書。錢一百貫。制書或重

害及機密文書。轉兩資。無資可轉人。支錢二百貫。告獲傳送軍期重害機密遞角盜拆。

及請求或教令開拆窺看者錢三百貫。有名日資級人轉兩資。



（文朱書）

經世大典 急遞鋪轉送朝廷。及方面。及郡邑文書往來。十里或十五里。二十五里。設

一急遞鋪。十鋪設一郵長。鋪卒五人。文書至則紀于曆。視早晏標至時干封。因以絹

囊貯而板夾之。又包以小漆絹。卒腰革帶。帶懸鈴。手鎗。挾襜褕。賫文書以行。夜

則持炬火馬。道使車馬者。負荷者。聞鈴則遙避諸旁。夜亦以驚虎狼。不若又響及所

之鋪。則鋪人出以俟其至。囊板以護文書不破碎。不襞積。摺小漆絹襜褕以禦雨雪不

濡濕。槍以備不虞所之鋪得之。又展轉以去。定制一晝夜走四百里。郵長治其稽滯者。

郡邑官復督察加詳馬。而勤惰有賞罰。京師則設總急遞鋪。提領所秩九品。銅印。官

三員。又有號牒鎖匣印帖。長引隔眼之法。可謂密矣。世祖皇帝庚申年四月十九日。

聖旨諭宣慰使馮馮秀才等。自燕京經由望雲直至開平府。驗地遠近。人數多寡。起立

急遞站鋪。凡有合遞文字。依已前體例。嚴立限次遞送。據合用人數。於漏籍戶內斟

酌差撥。須管久遠安穩住坐。仍具置定站鋪月日次第申奏。其餘合立去處。照依已委

就便一體施行。欽此。於大都東西北道。起立一百鋪。於各州縣親管民戶內僉撥到鋪兵一千令一十八戶。撥於各鋪當役。北道花園鋪。至雲州赤城四十二鋪。每鋪一十里一鋪。額設鋪兵一十六名。計三百七十四戶。大都在城三鋪。左巡院花園。右巡院二鋪。總鋪。白雲樓。昌平縣十一鋪。雙泉。永泰。唐家嶺。榆河。皂角。雙塔。辛店。石河。南口。長坡。居庸關。龍慶州二鋪。北口。嬀川。懷來縣十一鋪。棒槌店。榆林。管家庄。懷來。七里疇。狼山。統幕。泉頭。長嶺。洪贊。石娥兒。雲州十五鋪。槍竿嶺。欄林。李老峪。何家寨。魯家保。向陽水。高家會。刁窩。井子水。西流水。趙家寨。碾子峪。下松林。上松林。赤城東道。臘八庄鋪。至薊州蘆兒嶺四十鋪。每鋪額設鋪兵五名。計二百名。大興縣三鋪。臘八庄。西交亭。東交亭。通州十四鋪。辛店。長城。西關。古城。李家庄。小白河。馬巫岱。白墩子。夏店。泥里。白浮圖。朱家墳。東石橋。東嶺。薊州二十三鋪。白簡。邦君。許家嶺。十里河。西關。七里峰甲。

匠營。驢山頭。馬身橋。林河。石門。六百營。義井。保子。小官庄。沙河。遵化西關。帖山鎮。吳家城。大柳樹。荆子。辛店。蘆兒嶺二鋪。西道通玄關鋪。至涿州澤畔鋪一十八鋪。每鋪額設鋪兵八名。計一百四十四戶。宛平縣五鋪。通玄關。雙堤。義井兒。蘆溝橋。辛店。良鄉縣六鋪。長陽。燎石岡。楊家庄。崇義店。舊店。琉璃河。房山縣一鋪。挾河。涿州六鋪。古店。湖良河。小馬村。西臯。松林。澤略。二十八日。聖旨諭宣撫。使八春印都商孟鄉等。自京兆府直至開平府。驗地理遠近。人數多寡。立急遞站鋪。遇有合遞文字。依已前體例。嚴立限次遞送。據合用人數。於漏籍戶內斟酌差撥。須管久遠安穩住坐。仍具立定站鋪月日次第申奏。其餘合立去處。照依已委一體施行。中統元年五月。令隨處官司。直接隣境兩界。安置傳遞鋪驛至本路宣撫司。宣撫司置鋪接連直至朝省。每鋪置鋪十五名。各處縣官各置文簿一道付鋪。遇有遞送文字。當傳鋪所即注名件到鋪時刻。及所轄傳送人姓名。置簿令轉送人。取

下鋪押字交收時刻還鋪。本縣官司時復照刷稽滯者。治罪。其文字。本縣官司絹袋封記。以牌書號。其牌長五寸。闊一寸五分。以綠油黃字書號。若係邊關急速公事。用匣子封鎖。於上重別題號。及寫某處文字發遣時刻。以憑照勘遲速。其匣子長一尺。闊四寸。高三寸用黑油紅字書號。已上牌匣俱係營造小尺。上以千字文爲號。仍將本營地境。置立鋪驛卓望地名。各各開坐。遞相行移。隣接官司。本路宣撫司將各各設定鋪驛幾處。占訖人數報省。今列設鋪地里。合行遠近。仰遵依施行。一東路燕京已北。宣德州已北。至開平府每十里設置一鋪。如遇傳遞文字。須管一時辰內傳遞。三鋪計行三十里。一東路燕京已南。西路宣德州已南。每二十五里置一鋪。如遇傳遞文字。須管一時辰內決到鋪前。計行二十五里。燕京路宣撫司。西京路宣撫司。北京路宣撫司。平陽路宣撫司。東平路宣撫司。真定路宣撫司。大名路宣撫司。河南路宣撫司。益都路宣撫司。京兆路宣撫司。二年四月中書省奏準。各路所設急遞鋪。令宣撫司提調。

仍禁約沿途不得奪要文字。本管官司亦不得科取差發錢物。遞運文字。如有稽遲日時。約量治罪。鋪側居住人戶。或設肆買賣者往來。馬軍使臣人等。並不得搔擾。所遞文字。除申朝省并本路行移官司文字外。其餘閑慢文字。不許入遞。亦不得私自夾帶一毫物件。轉送鋪丁。常加存恤。毋令逃竄失所。違者宣撫司究治。七月中書右三部先據各路急遞鋪走遞文字。中間稽遲損壞。爲係點視官。不爲用心。及不係正官。又無俸祿。此上呈奉都堂鈞旨行下各路。令總管府委有俸正官一員。總行提點州縣。亦委有俸次官往來刷勘。須要晝夜依程轉遞。今來照得累承中書省劄付。備樞密院制國用使司呈。并左三部關。及各路申急遞鋪傳遞文字。往往遺失棄毀。隱匿稽遲。及匣子亦各損壞。兵人數少。蓋緣提點官依前不爲用心。以致如此。爲此擬定罪名。呈奉中書省。劄付該傳遞文字。務在鋪司置曆分期附寫。所受所發。相隣鋪兵姓名。文字時刻。及交遞文匣封鎖。有無損壞。每月提點官就鋪照押。如此遞相關防。或有失悞。

易爲揆究懲誡。外據提點官委自本處未職正官。不妨本職。常切往來。仔細照曆照勘。須要鋪司依上謹細。鋪兵少壯。如有不堪鋪司鋪兵。從各管官司於一體戶內補換。相應。人再不更易。若有似前違錯。其州縣照依所擬贖。斷。總管府提調官。每季照勘所管州縣。多寡違犯次數。行下取招。申部呈省。仍取各路鋪司同提點官職名申部。不時差官點刷。毋得似前耽悞官事。仍釐勤提點官司。毋得因而搔擾鋪兵。取受酒食錢物。違者治罪。奉此。省部通行仰速於本路。并州縣官內。各委未職正官一員。不妨本職。充提點官。依奉中書省剗付內處分事理施行。仍具委定官職名。選補到堪。中戶計。開具各各鋪司鋪兵在名。備細數目。撥造帳冊。一就申部。毋致再行更易違錯。先具準行申來。一州縣提點官初犯。依舊例贖銅。再犯罰俸一月以贖其罪。三犯決四十。各標所犯過名。一總管府提點官。每季驗所管州縣。多寡違犯次數議罰。一提點官。如因而搔擾鋪兵。需求錢物者治罪。三年三月。中書省欽奉聖旨。遇有省中發遣

文字。令急遞鋪傳遞。其餘官府文字。並不得遞送。各路總管府。并總管軍官文字。直申省者傳遞。若不係申省文字。亦不得傳遞。欽此。移咨陝西四川軍前行省。劄付右三部。并大名平陽等路宣慰司施行禁治。不得將實封文字開拆損壞元封。又當年四月十四日。中書省劄付右三部。呈各路入遞申省文字。多無匣子封鑰。往往只用封皮。轉發前來。竊恐漏泄公事。兼有雨水濕損。仰行移各路。今後應遞申發文字。封裝用匣子盛頓。如無封鑰。於上書寫各路字號傳遞。毋得住滯。十二月四日。中書省欽奉聖旨。先爲調遣軍馬公事繁冗。設立急遞鋪傳送文字。今事務頗簡可罷去。欽此。劄付隨路。欽依施行。五年二月二十七日。丞相線直等奏。先奉旨燕京至上都創立急遞鋪。據設置宣慰去處。亦合一體設置。專以傳遞中書省左右部領部轉運司宣慰司文字。其沿邊軍情公事。合遣使往來。奉旨准。至元七年六月九日。尙書省據右司備承發司呈。各路總管府運司。及諸衙門申詳茶鹽斛粟藥味等物樣。并文卷簿籍一槩發付急遞鋪輔送。

其鋪司人等多是鄉村農叟。不識利害。其中差錯未便。今後但有申覆物樣文簿等件。須與文解一處。如法封裝。於上重封標寫路。分都省准呈送兵部遍行照會。八月七日。尙書兵部奉尙書省判送御史臺呈監察御史言。隨路行移關牒及帳冊入遞。疲困鋪兵。送本部照勘元行。擬定連呈。奉此照得隨路急遞鋪兵。見行遞轉中書省。尙書省。并河南陝西東京等處行省。及樞密院。御史臺。六部。在京諸司局文字。已是繁冗。若又轉發隨路往復關牒文字。實爲辛苦。議得除中都路幹辦事。凡有行移別路文字。合令本路封緘分付省部承發司。於省部下。各路封皮內。附帶別路。却有與中都路相關文字。亦合於申呈省部封皮內盛。頓入遞轉發。其餘路。分遞相關會文字。似難入遞。止合令人投下。外據隨路申解帳冊。重十斤以下。可以擔負者。許令入遞呈準。仰遍行合屬照會。依上施行。九月四日。尙書兵部奉省劄擬到。除中都路與別路相關文字。於省部承發司附帶入遞。其餘路。分遞相關會文字。正合令人投下。事今據御史臺呈



山東東西道。提刑按察司申。若不於急遞舖傳發。實是耽悞。本臺照得按察司。係監司衙門。拘該數路。關涉事多。難同隨路體例。乞依舊傳遞省府。準呈仰照驗施行。

八年二月八日。尙書兵部近準各部關。并隨路總管府申急遞傳發文字。多有稽遲遺失。磨擦損壞等事。呈奉到尙書省。剗付差官馳驛分路遍舖點勘照刷。慮恐不一。再行講究到下項逐款事理。呈奉都堂鈞旨。送本部準擬施行。奉此省部逐一區處干後一各司縣并無縣州未職。有俸正官。即係親臨提點官。擬合上下半月往來。親行赴舖。署押文曆。仍各攙過界首一舖。遞相照刷文字。有無稽遲損壞。及點視關少舖司舖兵。什物不完。每月依例具申所屬上司。倒申總府。轉行申部。其親臨提點官。若無所屬上司提點。竊恐或時怠慢。擬合令有司轄縣州城。及轄州縣散府。有俸未職正官各一員。每月一次。亦行遍舖依上照刷。如有稽遲怠慢。就取親臨提點官招伏類申總府。如無總府提點官。通行照領亦恐州縣提點官無所畏懼。通同捏合時刻。以致失悞官事。擬

合令總府未職正官一員。吏爲親行提點照刷。如稽遲怠慢。依上取提類詳申部。其餘散府及州城直隸省部者。未職正官。即與總府提點官。同所據府州司縣提點官違犯贖斷一節。照依中書省元定體例施行。一凡有遞轉文字到鋪司。隨即分期附籍。速令當該鋪兵。裹以軟包袱。更用油絹捲縛。夾板束繫。費小回曆一本。作急走遞到下鋪交割附曆訖。於回曆上令鋪司驗到鋪時刻。并文字總計角數。及有無開拆磨擦損壞。或亂行批寫字樣。如此附寫一行。鋪司書字回還。若有違犯。易爲挨問。一鋪兵私下將所遞文字開封發視者。根究得獲。責付合屬牢固收管。聽候申部呈省詳斷。一鋪司所傳文字。多係邊關緊急。或課程差發造作刑名等事。儻有失悞。利害非輕。今知隨路鋪分。往往有年老幼小。不堪應役之人。或雇人頂替。深爲未便。今後釐勒各處提點官。須要本戶。少壯人力。正身應役走遞。仍照依元定里數。須要一晝夜走遞四百里。一鋪兵置備下項什物。於各鋪門首分期安置。遇有損壞。隨即補換。每鋪十二時。輪子

一枚。紅綽屑一座。并牌額鋪曆二本。上司行下一本。諸路申上一本。每遇夜常明燈燭。鋪兵每名各備夾板一副。鈴攀一副。纓槍一。軟絹包袱一。油絹三尺。簑衣一領。回曆一本。一隨衙門應下各路文字。并隨路申上文解封緘內。件數既多。又用簿紙作封盛頓。以此沿路遞傳。易爲擦磨損壞。今擬合一體。先用淨檢紙封裹於上。更用厚夾紙印信封皮。其張數少者。每角不過五件。多者各令封緘。仍於封緘上標寫入遞時刻。以望不致稽遲損壞。一各路承發文字人吏。每日逐旋發放。及將承發到文字。驗視有無開拆磨擦損壞。批寫字樣分期附簿。似望已後。易爲照勘。五月十四日。兵部奉尙書省劄付。官籍監呈西京太原等處。管斷沒官中。遇有申覆公事。并本監行下各官。及行移上都本監文字。合無入遞。得此送本部講究得。不合入遞傳送省府。議得官籍監前屬制府時。遇有文字制府行下取勘。今本監直隸省府。合依所呈。仰行下承發司。遇有官籍監下各處斷沒官文字。於刑部下各路總管府封皮內附帶。如有回申。却於總

管府封皮內入遞。本監行移上都監文字。亦仰於省封皮內附帶入遞。仍下各路照會施行。二十一日。尙書兵部據益都路申。東路蒙古漢軍都元師府。權府牒申院查軍準行入遞飛申府司。照得從來並未曾。遞傳都元師文字。乞照詳。兵部議沿邊軍情公事。合遣使往來。已有奏准通例。擬合遵守施行符下訖。十月十三日。兵部奉省判翰林國史院備陝西等路蒙古教授李珪言。申報公事。別無所設公使人。若令各處急遞鋪。往復就帶投呈。以爲便益。本部擬蒙古教授往復文字。合於各路總管府文字就帶。翰林國史院文字。合於各部下隨路實封內就帶相應。尙書省準擬。九年二月二十八日。兵刑部議擬急遞鋪。合行事理。該委各州縣未職正官。每季親行提點照刷。凡有傳送文字。當該鋪兵。裹以軟絹包袱。復用油絹捲縛。次以夾板束繫。管小回曆一本。到下次鋪交付訖。於回曆上令鋪司騎到鋪時刻。并文字總計角數。及有無開拆損壞。或亂行批寫字樣。如此標附一行。鋪司畫字回還。亦令各路承發司。將承發到文字驗視有

無如上違錯。明白附簿。如不測差官計點。但有滅裂去處。定是嚴行究治。外據晝夜合走里數。依已擬定走遞。都省準擬。五月七日。左補闕祖立福。合奏諸路急遞鋪。名不合人情急者。速急也。但凡國家設官署名字。意必須吉祥者。爲妙合無更定奉聖旨。可令老成人講究改換佳名。欽此。呈省照詳都堂鈞旨。令翰林國史院依上定立。本院講究擬作通遠或飛鈴鋪名。都省議定通遠鋪。劄付兵部依上施行。八月十九日。中書省準西蜀四川行省咨。鋪兵遞到省院咨文。累有磨損者。恐致漏泄。事關利害。都省議得省院行移西蜀四川行省文字。擬令綠油漆木匣盛頓入遞送。兵刑部造到綠油漆木匣四十箇。劄付樞密院依上施行。移咨本省。如遇回咨。就用傳去木匣盛頓入遞施行。十年閏六月。中書兵刑部奉省判軍器監呈。各處成造軍器等物。關撥物料。送納軍器。應係隨路各申稟事理。今後擬合急遞鋪轉送。似爲造作早得辨集。都堂鈞旨送兵刑部照會施行。十月二十二日。中書兵刑部奉省判詣路幹脫總管府呈本府掌管幹脫人戶。俱

在隨路漫散住坐。每年利息。並不依期送納。兼本府別無公使人力。合無將本府文書。與軍器監一例令急遞鋪轉送。都堂鈞旨照例定奪。奉此。省部照得軍器監文書已經入遞。幹脫府文書。亦合急遞鋪轉送。十一年八月二十九日。中書戶部據承發司呈鋪兵遞到隨路并庫司。應報文冊。俱無申解。縱有申解。却與其餘文字一處實封遞發。其間冊解先後不能一就到司。若將冊發下戶部。不爲無詞。必不承受。若候類聚發送。誠恐有悞公事。又各路實封文解多有破壞。緣用軍紙作封裝發。地遠致令磨擦破壞。乞今後隨路并庫司。凡有文冊。今當該人吏將申解。就於冊內實封轉發。其餘文解。令各該人吏在意用紙重封傳送。似望帳冊文解完備。更不破壞。似爲便益。省部准呈。遍行照驗。十二月十八日。兵刑部據寧海州中福山縣。在城社長遲忠信呈南鄰于文海。遞到上同下寧海州。無封皮文字一束。乞下益都淄萊兩路禁約。毋令沿村人戶傳遞。省部照得。元行將下寧海州文字遞傳。至益都迤東。仰鄰接州縣相承傳遞。今據見申。

仰依已行令鄰接州縣轉遞。毋差村居人戶致使毀封泄事。十二年四月三日。兵刑部奉省判樞密院呈。各路申解軍情文字。驗元發月日。會計地里程限。稽遲大甚。又聞急遞鋪司。凡承受文字。積聚甚多。方始送遞。沿途不爲用心封裹。以致字樣磨損。不堪呈押及有遺失不存者。即今調遣軍馬之時。多係邊關機密文字。若不懲誡。恐致失事。都堂鈞旨。遍行各路。嚴勒急遞鋪兵。如有接到軍情。并不以是何文字。須管割時遞送。停滯損壞者罪之。十三年四月二十七日。中書兵刑部奉省判左右司呈尙瑀提舉司。前去種稻麥路分。往來。勾。當。并尙瑀署於各路置司。凡有文字合無入遞。本部議得尙瑀提舉司文字。若於宣徽院下。各路封皮內。就帶及尙瑀署文字。仰於各路申宣徽院。封皮內傳送相應。都堂准呈。十六年四月十七日。中書兵部奉省劄據承發司呈。鋪兵遞到諸衙門文解。多有磨擦破碎。又樞密院呈大都急遞鋪送納行中書省咨文七件。俱無封緘。破碎不堪呈押。并散亂陣亡病死軍冊二本。乞究治郎省移咨行

省。今後遞送文字。務要如法重封。毋致磨擦。今將樞密院元呈錄連行下合屬提點官。今後每上下半月親詣遞鋪提點文曆。須要不致稽滯損壞。如有違犯。定將當該提點官究治。仍依上挨間施行。二十年二月二十日。留守賀某奏。初立急遞鋪時。省官取不能當差貧戶。除其差發充鋪兵。又不敷者。漏籍戶內貼補。今富人規避差發。求充鋪兵。乞擇其富者。今充站戶。站戶之貧者。却充鋪兵。尤良哈解火魯火孫等官處。稟議皆以爲然。令臣奏違奉聖旨准。是月中書省准四川省咨。雲南及省所轄地面。及羅羅斯宣慰司。添設急遞鋪。至四川界首。傳遞事照得今雲南省文字。自成都至嘉定水站。經由叙州烏蒙接諸路未嘗失悞。若更於羅羅斯勑立遞鋪。別無戶計。擬合於元立鋪道遞送爲使。都省準擬。咨四川省去訖。二十一年二月。兵部奉中書省劄付。御史臺呈。隨路急遞鋪。比年以來。走遞條約隳廢。有司再不檢舉。行御史臺揚州設立。拘該江淮等路四省之地。文字浩繁。及各道急遞鋪傳到文字。往往稽遲。動經旬月。



並不依元定時刻。里數走遞。文字多有磨損。或脫漏沉埋。失悞公事。蓋是各處提點官。不爲用心整點。循習怠慢。以致如此。本臺除已差官自大都前去揚州整點沿路鋪兵。并下各道依上差官整點外。更乞分頭差官遍行諸路整點。都省照得急遞鋪。元擬傳遞文字。標寫承奉時刻鋪兵。一晝夜行四百里。各路總管府委有俸正官。每季親行提點。州縣亦委有俸未職正官。上下半月照刷。如有怠慢。初犯事輕者答四十贖銅。再犯罰俸一月。三犯的決。總管府提點官比總管減一等。仍科三十。初犯贖銅再犯罰俸半月。三犯的決。鋪兵鋪司痛行。斷罪。累經行下合屬依上施行去訖。近准荆湖行者急遞鋪。稽遲損壞文字。再送據兵部從長講究回呈。元定轉運呈限。提點官責罰規繩。遠近輕重。不爲不盡。然往往遲滯。蓋由提點官員。久而疎慢。不肯用心拘鈴鋪兵人等。上司衙門加以縱弛。不依前例責罰提點官。上下相容。以致如此。今後若有怠慢稽遲失悞去處。將當該提點官。照依元定規繩。必罰毋恕。仍令各道按察司不時點視。依上

責罰。似望革去前弊。已經準呈送本部依上施行訖。今據見呈都省。除已箚付御史臺。行下各道按察司。不時點檢。如有稽遲磨損文字。將鋪司鋪兵就使斷罪。提點官取招申臺呈省外。仰依已行。遍下合屬依上施行。四月功德。使司官。脫囚桑哥奏都功德。使司文字。在先不曾入遞。今呈大都省及行下僧人。一切文書至多。乞令人遞轉送。奉聖旨准。二十二年三月二十九日。中書省近爲有司不爲用心拘鈴。依期整點急遞鋪兵。亦有關役并老幼之人走遞。不及元定里數。及所傳送文字。不分緩急。致令一槩稽遲。擬令急速文字。用油單羊皮表布裏青囊盛頓。一晝夜須行五百里。其餘文字用油單羊皮表布裏白囊盛頓。依元限一晝夜行四百里。該承官府照依聖旨。元定程限施行。若遇急速公事。驗上司坐去限次回報。違者治罪。及將造到青白皮囊樣。咨發各省。簡付合屬依上施行去訖。都省照得青白囊。合用羊皮即目民間皮貨。官爲拘收諸項造作。用度數多。若依元發樣製成造。慮恐皮貨不敷。今擬作元定青白顏色。改爲絹表布裏。

成造。又擬兵部呈爲遞鋪設置。二十五年。其鋪兵豈無逃亡老幼事故人等。擬合差人前去督勒各路提點官。與州縣未職正官。公同一鋪鋪點勘。但有事故逃亡老幼不堪走遞。闕役鋪兵。即便依額補差數足。整點什物完備外。據所立鋪分。若有十里之上者。依元行以十里爲則安置。都省准呈遍行訖。二十五年三月七日。奉聖旨各急遞鋪畜狗。二十六年正月二十三日。尚書省據宣政院呈。脫思麻隴西等路。西蜀四川釋教總攝所文字。合無照依江淮諸路釋教都總統所例入遞傳送。都省依准。劄付宣政院。下兵部照會。十一月尚書省樞密院呈。脫忽鐵木兒萬戶下蒙古奧魯官安哥申。見於德州平原縣置司。尙軍情文字。合與有司下體遞送。兵部照擬得樞密院。專爲急速軍情文字入遞。合從所擬相應。都省照會依上施行。二十七年三月二十五日。中書省據宣使阿忽祥呈。計點各處急遞鋪。有府判州判縣尉提調。因公差故。遞相推調。以致稽遲。今後遇有差故。就令各處以次正官首領官提調。似不遲悞。又諸衙門應有一切官中文字。必須經由

承發司發行。或有案司小吏。不詳合發文字緊慢。經隔數日。不行填發。乞委首領官一員。不妨本職提調。每日於各案司銷照發行。亦不遲悞。都堂准呈。送兵部依上施行。六月十六日。兵部呈山東宣慰司關濮州申。濮州與山東宣慰司東北西南相望。遞傳文字。却往正南。轉至曹州一百二十里。往東至濟寧府一百五十里。往北至鄆成縣東第十二牌急遞鋪。又是八十里。計三百五十里。纔與濮州東西相照。不知徑直至十二牌鋪。止是一百里。背遞三百餘里。若將曹州至濟寧府七鋪。移於曹州東至濮州。止安五鋪。餘有二鋪。濮州至曹州五鋪。移於州東至鄆縣。一十二鋪相接。不唯里路近便。又得省并兩鋪爲民。都堂鈞旨准呈。連送兵部。行移合屬照會。仍將放罷戶數。就關戶部收差。奉此。二十八年十月九日。中書省照得近年衙門衆多。文字繁冗。急遞之法。大不如初。議到下項事理。劄付兵部。仰遍行合屬。逐一依准施行。一近年入遞文字。封緘雜亂。發遣無時。是故附寫多致差迷。轉遞亦甚不便。今後省部并諸衙門。凡人

遞送文字。甚常事皆付承發司隨所投下去處。各類爲一緘。謂如江淮行省去者。凡江淮行省。不以是何文字通爲一緘。其他官府准此。且發遣附寫不繁。轉遞亦便。一省部台院急速之事。另置匣子發遣。其匣子入遞隨到即行。一晝夜須及四百里。此等文字。另行附曆。以備照刷。其行省行院行台皆准此。一鋪司須能附寫文曆。辨定時刻。鋪兵須壯健善走者。不堪之人。隨即易換。一轉遞匣子內文字。一晝夜須行四百里。其餘文字發遣。既無繁文轉遞。亦多省力。一晝夜擬行四百里。違者提點急遞鋪官依例斷罪。一文字到日。當該提點官。遍詣諸鋪。叮嚀省諭鋪司鋪兵。各使備細通曉。毋致停滯差遣。三十年六月。中書省據兵部呈急遞鋪文字稽遲。蓋因各處提調官。不爲用心照刷。及諸衙門文字繁劇。元報鋪兵數少。不能造辨。擬於大都迤南至保定眞定。貫通各省去處。量添鋪兵。令廉訪司常切釐勒。各處提調正官。親行詣鋪照刷整治。定立到提調正官罪名。具呈照詳。都省議得。隨路急遞鋪所遍文字。此之初立以來。特是

遲慢。蓋爲各輔兵積年之間。漸有逃亡。不及元數。止仰見在人戶傳遞。及各處提調正官。看同泛常。不依元例上下半月親詣各鋪整治。往往令輔司人等。就帶文簿赴司呈押。或轉委司吏人等代替照刷。雖有怠慢去處。不肯從公理會。中間因而作弊。以致鋪兵人等。滅裂如此。今擬差官分道前去腹裏路分。與各道正官。一同詣鋪。從實計點。若有身死在逃。老幼殘疾。不堪走遞之人。取勘見數。於相應戶內依數補換。須令堪役人丁。正身應役。毋令權豪勢要。并一般人戶受錢結攬代替。開具實補換戶數。各縣村莊花名。造冊呈省。或有必合添設戶數去處。亦仰明白議擬。保結呈省。仍令各鋪照依已定體例。并按續禁治條陳事理。實置時刻輪牌。燈墩法燭。氈袋油絹。夾板鈴攀等物。一切完備。遇有遞傳文字。隨於鋪曆上分朗附寫。是何衙門文字。承發時刻。相鄰鋪兵姓名交遞。文匣有無損壞。即用已備物件。如法裹護。及用當時第幾刻牌子。於文字上未繫。依所定時刻。送至前輔。亦行依上明白交接附曆。須要晝夜

行四百里。委自各路。正官一員。每季總行提調州縣。亦令有俸未職正官。上下半月親臨提調往來照刷。如有稽遲磨擦損壞。沉匿文字。即將當該輔司輔兵。驗事理輕重斷罪。仍令各道廉訪司。常切釐勒當該正官。依期整點。如但有不依所責。親臨提調官。初犯笞一十七下。再犯加一等。三犯呈省別議。總行提調官比親臨官減等科斷。每季具境內有無稽遲文字。開申合于上司。任滿於解由內通行開寫。以憑黜降。遍行照會。依上施行。三十一年八月中書兵部奉中書省劄付。御史台呈。行御史台咨。浙東海右道肅政廉訪司申。監治濫台處州。分司牒。諸衙門入遞公文。皆用印信封皮。以防走泄官事。體開近年。隨處鋪兵。往往私將所遞公文拆着。及有一等訴訟被論人。採聽官事。追會公文入輔。先於道路等截。賄賂鋪兵。私開抄錄。或致盜匿。姦弊多端。今處州路縉雲縣鋪兵。將本司移牒總司公文拆開。夾帶貼子。書寫宣慰司所委點鋪奏差張繼忠。取受錢物。及至總司繳回。損究至本鋪。其人又復開拆。却將原寫貼子揭去。

詳此明見隨處鋪兵人等。將應有遞送諸衙門公文。件件私自折讀。其間主意難測。若不嚴加關防。所繫利害非輕。其鋪司鋪兵。多是受雇僥倖頑庸之民。常不在鋪。或遇夜不遞。蓋因久與提調官吏情熟。詣鋪計點。有時遲慢。則營求脫免。所以縱慣情弊日深。往往輒將諸衙門公文盜開。其鋪兵於無人之地。必欲求水滋潤開拆。雖重重封裹。無濟於事。各處提調正官。不遇照刷稽遲。斷不能關防私拆之弊。其省部台院廉訪司事多機密。既鋪兵人等私自窺視。必有不良之意。至元二十八年。更張之後。都省許令各處置立木匣。所在官司至今因循苟且。止以封皮入遞。致令鋪兵擅開。或剝出鮮尾。聞知隨處遞鋪。元有造到木匣。未嘗使用。今令永嘉縣提調官。將到各處木匣大小不等。改造到一樣小匣五十隻。各帶鎖一副。先封一樣鑰匙於各衙門收管。每發公文入遞於鎖上封訖。仍用印封紙渾封面。當司如此遞送兩月。往復公文。匣上驗視。並無分毫拆動。此之向月。少有稽遲。牒請備申移咨御史台。及牒宣慰司。具



呈行省。行下合屬依都省元行一體置造木匣。轉遞公文。仍勒提調官。須要正名少壯鋪司鋪兵。晝夜在鋪應當。如委有病故。時暫許雇。少壯善走之人。應據若有代名鋪司鋪兵盡行替換。庶免盜拆稽遲之弊。具呈照詳。都省準呈簡付本部。遍行合屬依上置造木匣走遞。釐勒提調正官。照依已行常切整治施行。是年設置大都總急遞鋪提領。所降九品銅一顆。設提領三員。別無俸祿。成宗皇帝大德三年十一月。兵部呈大都路備急遞鋪提領所申。大都至上都八十二鋪。本路所管四十二鋪。沙窩鋪迤北至上都四十鋪。俱係上都管領。自二月初一日至八月罷散。本路所管鋪兵先行走遞止是支請四箇半月口糧。上都路鋪每年後走先散。却支六箇月口糧。擬合照依上都路鋪兵例。一體放支。本部參詳若依所申。擬自大德四年入役日爲始。與上都鋪兵一體放支。六箇月口糧相應。呈奉都堂鈞旨。送戶部行役兵部照勘明白。依舊例每月三斗。每年放支六箇月口糧。四年二月十三日。中書兵部奉省判。本部呈大同路申轉遞樞密院等衙門。

赴和林宣慰司投下文字迤北。但係蒙古軍站草地無處轉遞。本部照得大同迤北。元無所置急遞鋪。以此參詳。今後諸衙門行移宣慰司文字。合依甘肅行省例發付。省承發司就令。使臣順帶相應。奉都堂鈞旨準呈。連送行移照會施行。五年五月。大都路總急遞鋪提領所言。本管鋪兵。乃細戶下民。日夜奔走傳命。未嘗少休。正患臨逼逃竄。州縣官吏。又常以提調整點爲由。科差搔擾。今大都上都既設提領。所以掌郵傳。不必復隸州縣。合無止令官總攝。官民兩便。省部參詳。大都上都州縣事務繁劇。即與外路不同。既設急遞鋪提領。所給印親管鋪兵。合準所擬。止責本所依例照刷文曆。路官總行提調。若有違慢。依期科斷相應。下合屬依上施行。十年七月。江西行省言。自閏正月二十二日。蕪州路郵傳。總鋪中舉遞發到本省咨文一角。爲大德九年夏季賊盜事文字。印押破裂不完。遂遣使。由省前急遞鋪爲始。次第考究。至大都路擇畔鋪。惟龍興。南康。江州。興國。蕪州。黃州。汝寧府七處。所轄郵舍。所置夾板氈袋什

物如法。其餘汴梁、衛輝、彰德、廣平、順德、真定、保定、七處總鋪，皆無夾板。止用布帛囊盛文字。前咨乃是汴梁路在城總鋪裹束遞傳。以致沿途損壞。已取提調官成世傑招詞。似此疎慢。豈不敗事。請懲戒整治。兵部照得大同等路。先中郵傳。不遵程限。損失文字。蓋有總鋪承受公文。如式書記封護。傳至前輔依上發遣。所至輒經一二時辰。以故損失停滯。深爲不便。莫若以各鋪甕袋夾板繩檐什物。置於總鋪。凡遞發文字。合鋪司提領明書某處。至某處。呈下用某字號夾板什物裝發。各鋪附寫回曆時。書某鋪某人傳到某字夾板。以至前路相做標記。至總鋪然後聞拆。如式發遣。庶無住滯損失之弊。本部議除各處行省急遞鋪。候取勘完備區處。其腹裏路分。準上立法。令各路總鋪。相停收掌什物。以千字文編號。如或傳遞。提調官有不用心整治。以致稽遲損失公文者。初犯親臨州縣提點官罰俸一月。總府提點官罰俸半月。再犯州縣官答十七。總府官罰俸一月。三犯別議標註過名。相應呈奉省。擬差官計點鋪兵。

內若有逃亡老幼殘疾者。補易之。必合增設者。申明之。各照舊制設置時刻輪牌。燈  
墩法燭。氈袋油絹。夾板鈴攀諸物。凡遇遞傳文字。籍記是何官府承發時刻。相鄰鋪兵  
姓名交遞。文匣有無損壞。然後封裹。用某時某刻。木牌附繫。送達前鋪。晝夜行四百  
里。各路正官一員。每季總轄提調州縣未職正官。上下半月。親臨往來提調。如有稽遲  
損匿文字。即罪當該吏兵。各道廉訪司常切整治。但有違越。初犯親臨提調官笞十七。  
再犯笞二十七。三犯呈省別議。路官減一等科罪。任滿於解由內並開以憑黜降。已  
經依上施行訖。今據前因。再議遣使。分詣腹裏路分。及咨各省差官從新整點。其已  
取招詞去處。就便究治施行。十月二十四日。中書省淮江浙省咨。廣德路申。本路自  
在城鋪投東。舊曾設立羅村。夏家山。東亭湖。段村。急遞鋪四處。計五十餘里。相  
接湖州路。長興州所管店塘鋪連至杭州。止是三百餘里。文字往復。三日可達。先因  
省府移置揚州。以此將前項四鋪革去。自後省府復置杭州。大德元年。又因江東道宣

慰司例革。本路直隸省府。凡有甲報文字。必須經由湖州路所轄急遞鋪轉送。爲此議得。依舊設立段村等四鋪。走遞便益。大德三年五月四日。移準江東建康道肅政廉訪司牒。講議得宜從添置畫圖貼說。於當年十一月申。奉省府劄付。該移準中書省咨。送兵部議得。既廣德路改屬行省。合准所擬添置四鋪。所據鋪兵除就用舊戶外。若有數數之數。許於元減下鋪兵內差撥。依例起蓋鋪屋。走遞相應。依上添置訖。凡有遞送文字。並無稽遲。甚爲便益。至大德五年八月內。湖州路因爲減併遞鋪申。奉省府劄付。移準中書省咨。兵部呈該本部雖已斟酌存減合併。終不見彼中緊要事宜。恐有差遲。合咨行省。更爲可否。回咨承此。不期湖州路。不詳廣德。寧國。太平。池州等路。軍民官司。俱係直隸行省。接連走遞。緊要便道。却行朦朧稱安吉縣界至杭州餘杭縣等處。止是隣境縣分。遞送相關文字。不係緊要之處。如此設詞。致蒙省府一例革去。是致廣德并寧國池州等處軍民。官府一應申呈文字。及奉省府行下劄付。俱各經由溧

水。建康。鎮江。常州。無錫。平江。嘉興。崇德。杭州等路遞送。周拆一千五百餘里。一月餘方才得到。實爲悞事不便。爲此議擬仍舊添設段村等四急遞鋪。實爲便益。甲乞鈞詳。得此本省除已行下本路。依舊安置走遞外。咨請照驗都省。擬別無違礙。依上施行。英宗皇帝至治三年。兵部奉申書省劄付。海北廣東道肅政廉訪司照磨言。隨處急遞鋪。反匿損壞公文。有失設法等事。送本部議得置郵傳命。古今良法。行之既久。不能無弊。蓋其法每十里設置一鋪。排列道次。凡遞文字。止憑一鋪司承受發遣。其鋪司率皆村野愚民。不知利害。不通文理。一鋪曆尙然不整。豈能表率鋪兵。使之依法走遞。其鋪兵人數。老幼充應。多不堪役。州縣官司視同泛常又不依期親歷整點遂致文字稽遲損壞。至於沉匿。無從追究。爲弊至此。豈宜坐視不加整治。其元立程式。非有可以更張者。但爲別無專管之人。以致如斯。所據上項長引隔眼。固是可用。未能悉救其弊。又相離數千里去處。亦難每鋪標寫。以此參詳。擬合每十鋪設

一郵長。於州縣籍記司吏內差充。一周歲交承。其拘該兩州縣去處。從鋪多者差設。相等者遞年輪差。使之專督其事。時常於所管鋪分往來巡視。務要脩置亭舍。什物完備。附寫鋪曆明白。照依元立程式走遞。但有老幼鋪兵。隨即申覆補換。凡入遞文字從始發官司。約量地里遠近。印帖長引隔眼於上。明白標寫件數。發行日時。至各各郵長去處。標寫發放轉遞。每上下半月。開具遞過交件。及各各日時申覆提調官。依期親歷刷勘整點。署押文案。具報廉訪司照刷。若各鋪稽遲損壞文字。或附屬不明不實。本管郵長就便治罪。其在別管鋪分。亦須互相舉呈。所屬上司行移究治。若郵長不能盡職。致有稽遲者。提調官量事輕重議罪。三犯者替罷。仍出去州縣籍記姓名。其於一歲之內。克盡乃役。略無稽遲者。即許從優先行補用。若提調官吏。不行依期用心刷勘整治者。廉訪司嚴加究治。仍於年終將斷過此等官吏。通類另行呈台。備呈都省驗事。別議黜降。如此責委既專。自能盡心於事。前弊可得漸除。如蒙准呈。宜從都

省移咨各處行省。簡付御史台。照會本部依上施行。今將再立到隔眼樣式粘連在前。  
具呈照詳都省。仰遍行合屬依上施行。



